

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第152号(2019.11.1)
事務局 川西地区自主防災会

防災・減災における坂出市の取り組み

坂出市長 綾 宏

元号が平成から令和に変わりましたが、平成は阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの大きな地震が発生、また台風などによる風水害など大きな自然災害が発生し多くの命が奪われました。令和に入っても前線による集中豪雨により全国で被害が発生しています。このような災害に対応するために、各自治体では防災・減災対策に取り組んでいます。

防災・減災対策については、ハード対策とソフト対策があります。ハード対策は、建物の耐震化、岸壁の耐震化など期間とコストがかかります。ソフト対策は、人材育成、防災・減災に関する普及啓発などがあり、コストも安く直ちに取掛かれます。

坂出市では、ハード対策として平成25年度に坂出港の西岸壁の耐震化が完了し、現在、防災拠点となる市本庁舎の建設を免震構造で施工しており、令和2年度に完成予定です。また、ソフト対策として人材育成に特に力を入れており、平成25年度に女性消防団員「チームコスモス」、平成26年度に坂出市防災女性チーム「さかいで131(ぼうさい)おとめ隊」を発隊しました。そして、令和元年度から「坂出市防災・危機管理スペシャリスト」の養成を行っています。



1. 女性消防団員「チームコスモス」

女性消防団員“チームコスモス”は「自分たちの故郷(まち)は自分たちの手で守る」という信念のもと、地域の安全・安心を守るため、そして何より、地域の方々との心をつなぐ担い手として、平成25年度に女性消防団員21名で始動しました。

女性視点はもちろんのこと、年齢、職業も様々な女性で構成する“チームコスモス”ならではの特性を十分に活かしながら、保育



所、幼稚園、小学校そして婦人会、自主防災組織、外国人等と様々な方々への防火・防災啓発、応急救護の指導等に取り組んでいます。その地域に密着した活動は、子どもからお年寄りの方まで幅広い世代が防災を身近に捉え、減災に繋がる個々の「備え」を実行に移す醸成づくりに大いに役立っています。

また、平成28年度には県下初の女性分団となり、団員各々の意識高揚に繋がったと同時に、女性分団として約70日間に及ぶ厳しい訓練を経て全国女性消防操法大会に出場した経験は、災害現場における活動技術・知識の習得に繋がり、さらに活躍の場を広げていくことと期待しています。

今後も、地域住民の「ありがとう」のそばにいる消防団員として、地域防災の充実・強化の中核としての役割を果たしていくことでしょう。



2. 坂出市防災女性チーム「さかいで131（ぼうさい）おとめ隊」

「さかいで131（ぼうさい）おとめ隊」は市女性職員有志による、防災チームです。平成26年に発足し、今年で6年目になります。メンバーは11名で、毎年数名ずつ入れ替わりながら、「防災を日常に取り入れる」ことを目標に、様々な課・役職・年代の職員が集まって、「楽しみながら」活動を続けています。



これまで、避難所運営マニュアルの作成や、防災フェスタの開催、市民啓発など様々な活動をしてきましたが、特に力を入れているのは、職員研修で、昨年度は、「新規採用

職員研修」「避難所担当職員研修」「被災地派遣職員研修」などを実施しました。災害の際は、職員は最前線で活動しなければならず、自身や自身の家族も被災するにも関わらず、災害対応に当たらなければなりません。何日も自宅に帰れない状況となることもあるため、職員は特に心構えや準備が必要となりますが、あまりその状況を認識できていない職員が多いのが現状であります。特に女性は男性に比べると、ないとストレスになるものが多いとのことで、「自分に必要なものは自分で備える」ということを啓発しています。

彼女たちが啓発を続けることにより、予想される不安を減らしておくことで、過酷な業務のストレスが軽減されるのではないかと期待しています。



新規採用職員研修



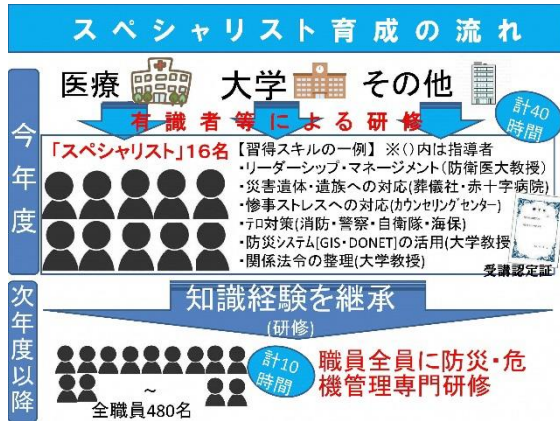
SAKAIDE防災フェスタ

3. 坂出市防災・危機管理スペシャリスト

近年、どこの組織においても人材育成は喫緊の課題です。防災・危機管理のスペシャリストについても然り、退職や異動などで新しい人が配属されても十分な引き継ぎ、教育ができていないのが現状です。人が変わると対応が変わるのではなく必要な部分は標準化して全職員にも伝える必要があります。今後、本市の防災力向上を図るには、職員の中に防災・危機管理について指導できる「坂出市防災・危機管理のスペシャリスト」を養成する必要があると考え、本年度から危機監理室職員（OBも含む）、消防職員の計16名が専門家等から40時間の講義やワークショップ等のプログラムを受講し、市長が認定するシステムを構築、研修を開始しました。そこで、この受講者が指導者となり来年度から全職員に対して10時間の研修を実施し、防災・危機管理能力の向上を図り、延いては市全体の防災・危機管理能力の向上を目指します。

プログラムの中には、今まであまり取り上げられてこなかったテロやイベント開催についてのリスクマネジメントについての知識習得や災害時の遺体対応、災害で亡くなられた遺族対応、惨事ストレスについても盛り込んでいます。惨事ストレスとは本年の2月、3月に昨年の7月豪雨で被災した愛媛県の西予市、宇和島市、支援に出

向いた熊本市（平成28年4月に地震により被災しています。）に聞き取り調査に出向いた際に3市共に出てきた言葉が「メンタルのサポートが必要だ。」ということでした。本市では、惨事ストレスについて以前から研修を実施しています。



令和は、いろいろなことをロボットやシステムがやってくれるような便利なことが加速していく時代になると思います。防災・減災ももちろん、しかし、そのロボットやシステムを使うのは人です。また、いろいろな機関と調整できるのも人です。今後、30年以内に70%~80%の確率で発生するといわれている南海トラフ地震に備えて、本市では、いろいろな形で防災・減災に対応できる人材育成に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

事務局だより

令和元年 11月

今月の事務局だよりは、「自然塾全国大会 in 香川・丸亀」を報告させていただきます。

「自然塾全国大会 in 香川・丸亀」

かがわ自主ぼう役員が主体となってお世話しております、「瀬戸内海塾」が主催し、「自然塾全国大会 in 香川・丸亀」を10月25日（金）～10月27日（日）にかけて、開催しましたので、活動報告します。

香川県での開催は、「第10回大会高松・直島」、「第15回大会琴平」に引き続き、第21回大会として、このたび丸亀で開催しました。

東大名誉教授月尾嘉男先生が塾長となって全国に約20団体の塾が構成されておりますが、3年ほど前から高齢化等により参加メンバーが減少、本年度も地元瀬戸内海塾を除いて13名と淋しい大会となりました。

1. 大会スケジュール

10月25日（金）17:00 前夜祭 川西コミュニティセンター

- ・防災の取組み紹介
- ・各塾の紹介
- ・交流会（手作りの讃岐料理でおもてなしを行ないました）

10月26日（土）9:00～15:30 西讃めぐり

- ・少林寺拳法本部 視察
- ・明治・大正時代の豪商「合田邸」見学
- ・さぬき満濃公園 見学
- ・国宝「丸亀城」 見学

10月26日（土）16:15～17:20 記念講演（川西コミュニティセンター）

テーマ：大地の成り立ちから地域の強み・弱みを考えるジオパーク

講師：前 香川大学 創造工学部長

長谷川 修一教授

17:30～21:00 交流会（レストハウス BABA）

10月27日（日）9:00～オークラホテル丸亀にて解散

2. 参加塾

- ・ 出羽修験塾（山形県）
- ・ 羊蹄山麓塾（北海道）
- ・ 古座川溪流塾（和歌山県）
- ・ 瀬戸内海塾（香川県）
- ・ 北広島郊外塾（北海道）
- ・ 釧路湿原塾（北海道）
- ・ 鞍瀬塾（愛媛県）



編集後記

今月の防災減災の輪は坂出市長 綾 宏様の原稿を掲載させていただきました。
ありがとうございました。